中央電気倶楽部月報

2024
4
Vol.862

◎巻頭言
「新理事長挨拶」
／理事長　荒木　誠

◎午さん会講演録
『福島原子力事故　～現状と学び～』
／一般社団法人 日本動力協会 会長
世界エネルギー会議 副会長
前東京電力ホールディングス 社長　廣瀬　直己 氏

中央電気倶楽部月報
令和六年四月一日発行　一般社団法人 中央電気倶楽部　〒530―0004 大阪市北区堂島浜二―二―二十五　電話〇六―六三四五―六三五一(代)　FAX 〇六―六三四五―六八七七

倶楽部からのご案内

公開講演会開催のご案内

令和六年度第一回(通算一一二回)の講演会を次のとおり開催します。

日　時　令和六年四月五日(金)
十三時三十分～十五時十分
場　所　(一社)中央電気倶楽部　五階 大ホール
演　題　『松下幸之助生誕一三〇年
アントレプレナーシップの
原点を考える』
※アントレプレナーシップとは、新しい事業の創造意欲に燃え、高いリスクに果敢に挑む姿勢をもつ起業家精神を指します。
講　師　株式会社PHP研究所
取締役　執行役員
PHP理念経営研究センター
代表　渡邊（わたなべ）　祐介（ゆうすけ）　氏
参加費　無料(先着二〇〇名様)
お申し込み・お問い合わせ
中央電気倶楽部　事務局
TEL ○六―六三四五―六三五六
Eメール　koukai@chuodenki-club.or.jp

春の文化探究会見学会のご案内

酔いしれて、源氏物語の世界へ

開催日　令和六年四月二十三日(火)【雨天決行】
出　発　中央電気倶楽部　九時五十分
行　先　昼食　月の蔵人…月桂冠大倉記念館…
大津市歴史博物館＊ 特集展示「源氏物語と大津」…大阪駅付近　十八時頃
定　員　二十五名(同伴歓迎)先着順とします。
会　費　会　員　一二、〇〇〇円
非会員　一五、〇〇〇円
申込方法　四月八日(月)までに事務局(松本)へご連絡ください。
＊「お茶と宇治のまち交流館『茶づな』」より変更になりました。

源氏物語図色紙(若紫) 伝俵屋宗達筆 江戸時代 石山寺蔵

会員ご家族婦人会見学会のご案内

SDGsと「三方よし」

開催日　令和六年五月二十一日(火)【雨天決行】
集合場所　中央電気倶楽部
行　先　西川庄六邸・西川甚五郎本店史料館
…昼食　日牟禮茶屋…ラ コリーナ近江八幡
定　員　二十五名(同伴歓迎)先着順とします。
会　費　会　員　一二、〇〇〇円
非会員　一五、〇〇〇円
申込方法　五月七日(火)までに事務局(松本)へご連絡ください。

電気関係施設見学会のご案内

関西電力最大の原子力発電所

開催日　令和六年六月二十五日(火)【雨天決行】
集合場所　中央電気倶楽部
行　先　大飯発電所(原子力運転サポートセンター／ビジターズハウス・おおいり館)
定　員　二十名(同伴歓迎)先着順とします。
会　費　会　員　一二、〇〇〇円
非会員　一五、〇〇〇円
申込方法　六月六日(木)までに事務局(松本)へご連絡ください。

中央電気倶楽部月報

5階大ホール「グランドピアノ」

目　次

4月のスケジュール ―― 2
5月・6月の予定
新理事長あいさつ ―― 4
絵画 ―― 5
講演録 ―― 6～14
倶楽部だより ―― 15～16
同好会だより ―― 17～19
倶楽部からのご案内 ― 20

創　　立：大正3年11月
建物（本館）：昭和5年竣工
会 員 数：1,410名

法人指定会員 1,184名
個 人 会 員 226名
（R.6.3.末現在）

四月のスケジュール

一	月	青年会例会
二	火	
三	水	電寿会 春の見学会（パナソニックミュージアム 藤田美術館） 絵画部（水彩画）（B一〇号室）十三時～ 社交ダンス教室（B一〇号室）十七時～
四	木	電壮会 春の見学会（関西電力 舞鶴発電所 他）
五	金	公開講演会（五階大ホール）十三時三十分～ 講演『松下幸之助生誕一三〇年 アントレプレナーシップの原点を考える』 （株）PHP研究所　取締役　執行役員 PHP理念経営研究センター　代表 渡邊　祐介　氏
六	土	第三十四回 四倶楽部懇親将棋会（於 中央電気倶楽部） 三倶楽部対抗四ツ玉競技会（於 清交社）
七	日	
八	月	
九	火	文化・集会委員会（特別会議室）十一時～
十	水	社交ダンス教室（B一〇号室）十七時～
十一	木	
十二	金	午さん会　講演『食糧安全保障と農政リスク』 キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹　山下　一仁　氏
十三	土	囲碁部例会 撞球部例会
十四	日	
十五	月	
十六	火	
十七	水	社交ダンス教室（B一〇号室）十七時～
十八	木	ゴルフ部例会（花吉野CC）
十九	金	午さん会　講演（仮）『文化庁京都移転一年 ～今後の課題～』 産経新聞社　大阪支局 山上　直子　氏
二十	土	いなづま句会（三一七号室） 初・中級者向け囲碁教室（十時～十二時・二〇五号室）
二十一	日	囲碁部指導日
二十二	月	
二十三	火	春の文化探究会見学会（月桂冠大倉記念館 他）
二十四	水	社交ダンス教室例会（B一〇号室）十七時～
二十五	木	
二十六	金	午さん会　講演『ロシアによるウクライナ侵攻の行方 ―日本の安全保障に与える影響―』 防衛研究所　研究幹事 兵頭　慎治　氏
二十七	土	将棋部例会・指導日
二十八	日	
二十九	月	昭和の日（休館日）
三十	火	

※予定変更の場合は改めて連絡いたします。

五月の午さん会講演（予定）

◎五月三日（金）休会

◎五月十日（金）
講演（仮）『米国外交の行方
～大統領選挙の見通しを踏まえて～』
同志社大学　法学部
教授　村田　晃嗣　氏

◎五月十七日（金）
講演『日本の安全保障と憲法改正』
産経新聞社　論説委員長
榊原　智　氏

◎五月二十四日（金）
講演（仮）『口笛コンサート（公演タイトル検討中）』
口笛奏者　儀間　太久実　氏

◎五月三十一日（金）
講演『日本画とは？
―歴史上日本美術は世界の最高峰―
そして、恩師加山又造先生のこと』
日本画家　山下　まゆみ　氏

六月の午さん会講演（予定）

◎六月七日（金）
講演（仮）『震災、津波への備えと対策について』
大阪管区気象台
気象防災部長　調　整　中

◎六月十四日（金）
講演（仮）『海洋日本を守る安全保障の処方箋
～脅威にどう対応するべきか～』
東海大学　海洋学部
教授　山田　吉彦　氏

◎六月二十一日（金）
講演（仮）『五代友厚氏が大阪に残したもの
～その評価について～』
鹿児島大学　名誉教授
志學館大学　教授　原口　泉　氏

◎六月二十八日（金）
ビデオ映画鑑賞会
『天外者（てんがらもん）
～生涯をかけ日本の未来を切り開いた男
「五代友厚」の知られざる物語～』（一〇九分）
主演　三浦　春馬
三浦　翔平
監督　田中　光敏

午さん講演会にご出席のおすすめ

毎週金曜日の午さん講演会は、下記の要領で開催いたしておりますので、多数ご出席ください。

出席資格：倶楽部会員およびご同伴の方、会員会社の社員の方
時　　間：12時～13時40分頃（講演12時40分～13時40分）
場　　所：3階大食堂
食 事 代：**一人会員2,200円（税込）**
非会員2,500円（税込）
予　　約：不要
着　　席：自由着席

「ごあいさつ」

理事長(代表理事)　荒木　誠
(関西電力株式会社
取締役代表執行役副社長)

このたび皆様のご推挙を賜り、中央電気倶楽部の理事長に就任することになりました。当倶楽部は本年、創立一一一周年を迎えますが、大正三年の設立以来、長きにわたり先輩方が受け継いでこられた当倶楽部の歴史を引き継ぐことを誠に光栄に感じますとともに、身の引き締まる思いであります。微力ながら、当倶楽部のさらなる発展に努めて参る所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨今は新型コロナウイルスの蔓延で自粛を余儀なくされていたあらゆる活動も再開して参りました。沈滞していた経済活動も息を吹き返し、更にその勢いを増しているようにも感じます。

新型コロナウイルス流行で深刻な打撃を受けた当倶楽部の事業収支も、今の社会情勢などを背景に、徐々にではありますが改善傾向に転じつつあります。最近は会員数の減少にも歯止めがかかり、貸室や食堂のご利用も、まだ完全に復活したわけではありませんが、昨年は大きく改善しました。

会員各位の平素のご支援に心から感謝申し上げますとともに、本年度もこの流れをしっかりと継続し、できるだけ会員の皆様にご満足いただけますよう、事業計画に沿って様々な取組みに挑戦し、喫緊の課題である収支改善にも取り組んで参りたいと存じます。皆様のご期待に応えられるよう、全力で活動して参りますので、引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

先輩方の築いてこられた伝統を尊重しつつ、新たな時代の要請にもしっかり応えることで、当倶楽部を継承、発展させて参る決意でございます。皆様にはなにとぞご理解を賜り、今後も当倶楽部をいっそう盛り立てていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

末筆ではございますが、会員各位の今後益々のご健勝とご発展を祈念して、就任のご挨拶とさせていただきます。今後一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

「冬野菜」　個人会員　北本　浩之　君

作者のひと言

ー絵を描く楽しみー

毎月第一水曜日に中央電気倶楽部・絵画部の例会があります。この絵は今年二月の例会で私が描いた絵です。

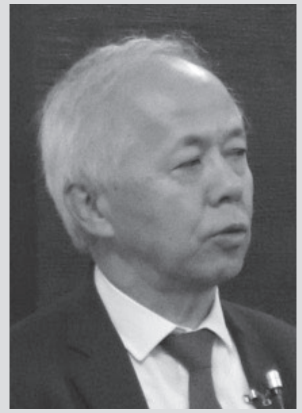
指導して下さるのは井上展也先生(二紀会)で、二月はかぶらや葱などの冬野菜を描きました。

私は現在八十二歳、定年後七十歳から絵を始めていつの間にか十二年が過ぎました。なかなか上手くなれませんが、上手い下手は関係なく絵を描くのは楽しいものです。描いている間は集中して無心になれます。絵という趣味に出会えたおかげで第二の人生が豊かになったと感じています。

絵画部では部員を募集しています。初心者も大歓迎、井上先生が親切に指導して下さいます。皆さまも是非一度、例会を覗いてみて下さい。

(絵画部員　北本　浩之)

午さん会講演録



『福島原子力事故 ～現状と学び～』

一般社団法人 日本動力協会 会長
世界エネルギー会議 副会長
前東京電力ホールディングス 社長
廣瀬 直己 氏

～はじめに～

福島第一原子力発電所の事故でいろいろなことを経験し、たくさんの学びをいたしました。これらは一般的な災害や安全対策にも活かすことができます。ですから、私どもの経験や学びを世界中の原子力関係者のみならず出来るだけ多くの人たちと共有し、少しでもお役に立てればと思い講演を続けてきました。社長時代はさすがに忙しく、そうした活動はできなかったのですが、退任後は海外も含め、いろいろな場でお話をする機会をいただいています。

～福島原子力事故では 何が起きていたのか～

まず、福島第一原子力発電所の事故を振り返ります。二〇一一年**三月十一日午後二時四十六分に大きな地震が発生しました。地震の規模を示すマグニチュードは九・〇です。これは日本の観測史上最大の数値で、世界でも四番目の規模です。このとき福島第一原子力発電所は、原子力用語でいう「スクラム」となりました。**原子炉内にはたくさんの燃料棒が立っていますが、そのあいだに核分裂を止める制御棒があり、地震を感知したとき、それが自動的に燃料棒の間に挿入されます。このようにして核分裂を止める操作を「スクラム」といいます。

核分裂が止まれば発電が停止し、発電所自体の電気がなくなります。その場合は外部電源を使います。通常、発電所から外へと電気を送っていますが、逆に外から中に電気を引き入れるわけです。ところがあのとき、**地震によって鉄塔が倒れてしまっていました。そのために外部電源が入ってこない。そこで即座に緊急用の非常用電源であるディーゼル発電機が動き出します。あのときもわずか数秒で非常用電源が起動し、発電所のコントロールが戻りました。この段階までは想定通りでした。**

東京にいた私が最初に発電所からの連絡を受けた内容は、「スクラム成功」、「発電所はコントロール下にあり」でした。たいへんな規模の地震でしたが、この第一報にいささかホッとしたことを覚えています。その四年前の二〇〇七年に起きた中越沖地震で東京電力の柏崎刈羽原子力発電所がスクラム停止をした経験があり、福島第一原子力発電所でも同様の動きとなったことで小さな安心をしたわけです。

ところが五十分後の三時三十六分、津波が押し寄せてきました。うねりながらかなりの勢いで押し寄せる津波の様子は、皆さんもテレビその他で何度も何度もご覧になったと思います。**福島第一原子力発電所は津波で大きく浸水してしまいました。これにより、非常用電源のディーゼル発電機が被害を受け、福島第一原子力発電所はすべての電気が失われた「全電源喪失」の状態になりました。**

原子燃料は核分裂が止まった後もたいへん大きな熱を維持していますから、水を循環させ、**原子燃料を冷やさなければなりません。しかし電源は失われていますし、そもそもポンプも流されてしまっている。その結果、冷やすことができない状態となり、温度がどんどん上昇していきます。**おそらく一〇〇〇度、一五〇〇度まで上昇したはずです。これほどの熱となれば、**燃料棒を被覆しているジルコニウムという金属が溶け始め、これが周囲の水蒸気と反応し、おびただしい量の水素を発生させます。空気よりも軽い水素はどんどん上へ上へとあがっていき、小さな隙間からも抜け出し、原子炉の建屋の上部にたまっていく。そして何かが引き金となって水素爆発に至りました。**

最初に爆発をしたのは一号機です。二〇一一年三月十二日十五時半頃、津波が押し寄せてから二十四時間後の爆発でした。続くように三号機、四号機が爆発。十四日、十五日と、三日間で三つの水素爆発が起きました。

幸い、原子炉は下の方の深いところに設置されていますから、**水素爆発が起きても原子炉そのものは無傷でしたが、一号機、三号機、四号機の建屋の上部が吹き飛び、これによって放射性物質は外へと流れ出してしまいます。**この際、たまたま南東の風が吹いていましたから、ほとんどの放射能が海側ではなく、北西の山のほうへと広がってしまいました。事故直後は、半径二〇キロエリアが避難指示区域となり、三月の寒さの中、十六万人超の住民の皆さんが着の身着のまま、一気に避難をしました。

一生懸命に除染作業をしたこと、放射性物質が減衰をしていったことにより、福島第一原子力発電所から半径二〇キロ以内の**避難指示区域**

廣瀬 直己 氏 プロフィール

略歴
一橋大学社会学部卒業
イェール大学経営大学院MBA（経営学修士）
1976年 東京電力入社
1992年～ 経営企画、営業、マーケティングなどの管理職を歴任
2006年 執行役員に就任
日本初となるオール電化の経済・環境メリットを訴求するキャンペーン「Switch!」を発案・主導
2010年 同社のグローバル展開に向けたビジョン2020を担う常務取締役に就任
2011年 福島原子力発電所事故直後から、原子力損害賠償の制度づくりに尽力
2012年 代表執行役社長に就任してからは、福島第一原子力発電所の廃炉、損害賠償、福島復興、電力自由化に向けた東京電力の競争力維持強化など、非常に複雑な課題への対応を主導
2021年 東京電力退任
現在 一般社団法人日本動力協会会長並びに世界エネルギー会議（WEC）副会長を務めている

も今では小さくなっているのですが、まだ避難指示が解除されていないエリアがあります。面積にして約三三七平方キロメートル、福島県全体の二・五％を占めるエリアについては、家の整理などで立ち入ることはできても、いまだ人が住むことはできません。**十二年半が経過した今も七千八百人の方々は元通りの生活をすることはできないのです。この方々がとにかく早く帰れるようにするために、東京電力はまだまだしっかり努力しなければなりません。**

ただ、元々住んでいたところに帰るのはなかなかに大変なことです。そもそも、避難なさった多くがお年寄りです。加えて、家は傷み、雑草は生い茂り、冬になれば雪が積もる。イノブタをはじめ、野生化している動物たちが町中を走りまわり、家に入り込んでやりたい放題の状態になっている。町も家も大変なことになっているわけです。

～福島復興活動　一日も早いご帰還に向けて～

この間、**東京電力の社員たちは、帰還のお手伝いをするために、家の雪下ろしや庭の草刈り、地震や津波で散らかった家の中の後片付けをしてきました。基本的には会社の業務命令ではなく、ボランタリーです。**行く行かないは社員個人の判断です。関東地方の各事業所で働く社員たちが福島まで行き、二泊三日、三泊四日の予定でボランティア活動をするというのがひとつのプログラムとなっています。

ボランティアとは言いながら、私も社長として「ぜひ協力してくれ」とお願いしました。実際に私も福島へ行き、草刈りの様子をビデオに撮り、社内に流し、「社長もボランティア活動に参加しています。皆さんも是非」とアナウンスしました。

東京電力の社員たちは、人っ子一人いないような避難地域へ足を踏み入れ、驚き戸惑ったことと思います。加えて、避難なさった方が住んでいた家の片付けですから、家人と会話しなければなりません。社員たちは最初に何を言えばよいのかわからず、言葉に詰まったことでしょう。二泊三日、三泊四日のあいだ、そこでも何かを感じ、彼らは自分の事業所へと戻ります。

私は職場に戻った社員たちに、「君たちが福島で見たこと感じたこと、避難なさった方々とどんな話をしたのか、向こうの皆さんはどういう対応をしてくださったか、とにかく職場のまわりの人たちに話してほしい」「〝昨日まで福島に行っていたけれども、大変な状態だったよ〟と、職場のまわりの人たちに話してほしい」とお願いをしました。話を聞いた同僚たちも、「そうなのか。わかった。来週はオレが行く」となってくれます。そんな連鎖反応がこの十年以上、続いています。

一人が一日ボランティア作業をする仕事量を「一人日」とすれば、**現在まで五十五万人日となります。しかも私の聞いている限り、福島でボランティア作業をしたことのない社員は一人もいない。それどころか、十回、二十回と参加してくれた社員もいる。私はその彼らを、あれだけのことをしてくれた東京電力の社員たちを誇りに思っています。**

～福島の原子力事故から　学んだこと～

福島の原子力事故から学んだことはたくさんありますが、その中で、大きく三つのお話をさせていただきます。

「安全文化の浸透」

一つめは、どのようにして社内に安全文化を定着させるのかという安全の話です。当然のことながら、あれだけの事故を起こしたあと、私たちはいろいろな対策を講じました。「常に問いかける姿勢」、「想定外の状況を予期」、「作業工程よりも安全を重要視」、「〝多層防御〟で設計」、「ベストプラクティスをベンチマーク」といったことに重点を置きましたが、これらは特別のことではなく、ほとんどの企業で取り組んでいることを、改めてちゃんとやっていくことに重きを置きました。

東京電力の原子力に従事している者に「福島の事故から何を学んだかひとつ挙げなさい」と問いましたら、「〝もうこれで十分安全だ〟とは思わないこと」と全員が同じことを言うと思います。**定期的に安全対策をすれば、当然、安全レベルは上がっていきます。そのときに「まあ、この辺りでいいだろう、これでいいや」とは思わず、もうちょっと、もうちょっとやってみようということを絶えず思い続ける。それが「〝もうこれで十分安全だ〟と思わない」という教訓です。**

言うは易く行うは難しですが、結局は継続していくことです。絶対に手を休めず、絶えず「もうちょっと」、「もう少し」と全員が思うことに尽きると思っています。

しかし、安全文化を浸透させるのはなかなか難しく、社内に安全文化を浸透させる上で一番難敵だと感じたものが二つありました。ひとつはコストです。予算と言い換えてもよいのかもしれません。もうひとつはスピードです。工事の納期がそれにあたります。**「コスト」と「スピード」の二つが、私にとっては安全文化浸透の難敵であったのです。**

多くの方々が「安全第一」という言葉を使います。一方、予算内に収めろ、予算を削減せよ、あるいはある程度のスピードで工期内に工事を終わらせよとも言います。しかし、急いだり予算をケチれば安全が薄れがちになりますし、より安全を求めれば、コストがかさんだり時間がかかったりしますから、**「安全」と、「コスト」「スピード」は両立しにくい、それどころか「安全」と、「コスト」「スピード」はトレードオフの関係にあると思っている人たちまでが少なからずいます。**聞けば、誰もが「安全第一だよ」と答えます。「安全第一」は耳にたこができるほどの言葉になっているにもかかわらず、たとえば年度末になって予算や納期が見えてくるにしたがい、「あとこれだけの予算しかない」、「この工事をいついつまでに終わらせなければならない」となってくる。そうなると、「今日だけはいいだろう」、「今回は目をつむり、このままやっちゃおうよ。こっちのほうが早いんだから」ということが起きてしまうのです。大抵の場合、それでも事故なく進んでしまいますが、場合によっては大きな事故につながってしまうのです。

私が社員たちに言い続けてきたことは、「〝安全〟〝コスト〟〝スピード〟

は相反するものではなく、三つが両立する最適解があるのだとまず信じることだ」、「手を伸ばした程度では届かないけれども、最適解はそこに必ずあると信じることだ」ということです。

「最適解はある」と信じれば、なんとかそこに少しでも近づこうと努力をし始めます。なかなか到達はしませんが、もうちょっと前へ、もう少し近づこうと動き続け、それを繰り返していく。もちろん、そんなに簡単にできるものではありません。しかしそれを繰り返し言い聞かせ続けていくことが一番大事なのだと思っています。

少し例をあげてみましょう。たとえば朝九時に工事を始めて、道路を掘削し、地中に配管を埋めたあと道路を平らに埋め戻して舗装するというような工事があったとします。少し時間が足りずにその日中に完成できない状況になりますと、道路に穴をあけたままで帰るわけにはいきませんから仮設のフタをし、さらに誘導員、ガードマンには残ってもらうということになります。そして、翌日、工事の続きをすることになります。

これをもし、その日の夕方に工事がすべて終わるように、二時間早い朝七時に全員が集合し、段取りよく工事を始めていたらどうでしょうか。道路に掘った大きな穴を一晩放置するという不安全な状態も回避することができますし、誘導員さんの残業代も払わなくてよい。何より一日で工事が完了していますから、早く終わっている。より安全であり、よりコストダウンができ、よりスピードアップができているという方法が、もしかしたらあったかもしれないわけです。

別の例ですが、たとえば「トラックをバックさせたら、もう一人が車の後ろにいた」、「クレーンで重たい物を吊り上げたら、知らないあいだに一人が荷の下にいた」といった事故を散見します。これらのケースでは、トラックの後ろに、あるいは吊り上げた荷の下に人がいなければ事故は起きなかった。一般的には一人より二人でやったほうが安全だという考えがありますが、人、時間をかければ、それで安全が高まるとは一概にはいえません。作業を突き詰め、磨き込み、ムダを徹底的にそぎ落としていったほうがより高い安全につながるケースは多々あります。現場で徹底して磨き込んで一人でやる形にできれば、たまたまバックするトラックの後ろに人がいたということを防ぐことができたりする。そういうことを考え、それをみんなが認識し、共有することが大事なのだと思います。要するに最適解がないか「考えろ」ということです。徹底した磨き込みで時間を生み出し、ムダを徹底的にそぎ落とすにはどうすればよいのかを考える。それが、届きそうで届かないところにある究極の最適解に近づく作業のひとつなのだと思います。「カイゼン」活動に近いもの、といったほうがよいのかもしれません。**磨き込みを徹底していくことによって、「安全」、「コスト」、「スピード」の三つが成り立つ最適解を求め出すことが可能になると思います。**

しかし、それでも安全を定着させるのは容易なことではありません。もしも上層部が「徹底されている」と思っているのだとすれば間違いです。「これで十分だ」とは思わず繰り返してやっていくしかないのです。

「効果的なコミュニケーション」

二つめは、記者会見における効果的なコミュニケーションについてお話しします。記者会見の席で責任者が並び、「このたびはたいへん申し訳ありませんでした」と頭を下げる光景は、ニュース等でよくご覧になると思いますが、我々も記者会見で幾度となく同じ失敗を繰り返してきました。

失敗の典型例は、発表が遅いことです。悪いことが起こったとき、すぐには発表せず、何日か抱え込んでから表に出す。そのために批判を受けてしまいます。それにはいろいろな理由がありますが、記者会見を開く流れになっていく中でのひとつのパターンがあると思います。

たとえば原子力発電所で何かの不具合で水漏れを見つけた場合、まずは第一発見者は上司に「放射能を含んだ冷却水が漏れている箇所を発見しました」と報告します。その際、上司、あるいは本部は「なんでそんなことが起きたのか」と聞きます。報告者もそこは予想していますから、答えを探す。同時に第一発見者だけでなく、上司側、本部側も次の展開として、「この問題を上にあげれば記者会見になるな。そこでは必ず、何が起こったのか、どうしてそれが起きたのか、再発防止策はあるのか、と矢継ぎ早に聞かれるな」と予測します。そして、これに対する答えを用意しようとします。**予想される質問に耳を揃えて答えるために、いつどこでこんなことが起きた、原因はこうこうで、こうこういう対策を立てた、というレポートを用意し、上層部に事故発生の報告と併せて報告する。そのために遅くなってしまうケースが多いのです。**

たとえば今日の十二時頃、記者会見を開かなければならないような重大事象が発生したとします。時間的には、その気になれば夕方五時には記者会見を開くことができます。しかし、まだ材料は揃いきっていません。そのようなケースを考えてみます。

夕方五時、一度目の記者会見を開いたとします。社長をはじめ、主立った者がその場に臨んでいます。予想どおり、記者から「原因は何ですか？」と質問される。はっきりとした原因はまだつかめていませんから、「現段階では原因究明中です」と答える。記者たちは回答に不満を持つものの、**十二時に発生した事故をその日の夕方五時に発表ですから、ある程度の理解は示してくれます。**「早く原因を究明せよ」、「次の記者会見はいつなのだ」という声はあがるものの、そのときはそれで納得してくれます。

逆に、**その日の夕方五時、記者会見を開かず、ひと晩抱えたとします。**もちろんその間、必死になって原因究明をしています。原因がわかれば万々歳となりますが、普通はまだわからない。翌朝九時や十時に、イヤな思いを抱えながら記者会見に臨みます。原因が少しでも判明していればよいのですが、まだつかめていない。重大事故発生から二十時間以上が経過した段階での発表に、場はざわつきます。

案の定、最初に「原因は何ですか」という質問が飛びます。原因究明はできていませんから、これも同じように「まだわかりません」と回答します。次にくるのは**「この二十時間以上、何をしていたのか」、「なぜ発**

表しなかったのか」という言葉です。ここから話が少しずつずれていき、挙げ句に**「隠蔽した」ということになっていく。**昨日十二時、悪い事象が起き、十分に会社はダメージを受けているのに、そこに「隠蔽した」というダメージが加わり、避けられたダメージだったはずなのに、この段階で二重苦になってしまう。**だからこそその日のうちに、なるべく早く発表をするようにしなければならないのです。**もちろん、記者たちから事故の原因、対策について問われても答えられません。しかしとにかく「東電は隠蔽をした」と取られてしまうことを防がなければなりません。

さらに、悪い事態を招くこともあります。たとえば十二時に事故が発生し、当日の夕方には記者会見を開かず翌朝に延ばしたとします。その場合、事故から二十時間以上も経過しているのに〝まだわからない〟では、**事故原因を問う記者の追及に耐えられないと考え、「まだ詳しくは判明していませんが」とか「ただし、まだ確定したわけではありません」という断りを入れながら、一〇〇%の確定ではない情報を出してしまうことがあります。**ところが、そうやって翌朝の記者会見を乗り切ることができたのに、二日、三日後になって、断り付きで発表した想定の原因とは違うことがわかり始めてくることが往々にしてあります。もちろん、そのときに改めて記者会見をし、わかってきたことの発表をしますが、当然、記者からは「二日前に発表した原因とは違いますよね」と聞かれます。**確定しているものではないと断り付きでコメントをしていたにもかかわらず、そういう質問が飛んできて、結局、「改ざん」したと言われてしまいます。**

事故が発生して、記者会見が遅れれば「隠蔽」とみなされ、数日後、未確定として発表した事故原因の見立てを修正すれば「改ざん」と解釈される。何としても避けなければならない事態です。**当日の夕方五時に会見をしていればすべてがクリアできていたはずなのに、とは言いません**が、**それをしなかったために自ら暗転していく流れをつくってしまい、二重苦、三重苦となって自分自身に重くのしかかってくるわけです。**このようなことを、私は現場の人間や中間管理職たちによく話します。

福島第一原子力発電所の事故のケースならば、当日の夕方五時に記者会見を開き、「原因はまだわかっていません」と発表します。記者たちも、事故発生から数時間しか経っていないし、原因がつかめなくても仕方がないと解釈します。翌朝十時、二回目の記者会見を開きます。記者たちから「何かわかったことはないのか」という質問が押し寄せます。こちらが「まだわかりません。引き続き、原因を調査中です」と答えると、東電は一体何をやっているのかと、マスコミは大騒ぎします。しかしこの場合は「隠蔽」ではありません。福島の場合、現場の放射線レベルが高くなっていたため、直接にはなかなか現場に近寄れない。そのために、会見では「原因究明の調査に難航しています」と言い訳が出来ます。それで通るのかどうかは別として、とにかく早く一回目を開くことが大事なのです。

私は社内でそういうことを幾度も話し、「だから早く教えてよ」と言い続けてきたのですが、特効薬はありません。そういうことをしっかりと話し、教え伝えて、社員たちにいかに「腹落ち」をしてもらうかということが大事なのだと思います。

「『一体感』の醸成」

三つめは「一体感」の醸成についてお話しします。当時、東京電力の四万人ほどの社員がどうやって一致団結し、あの難局に立ち向かってくれるようになったのか、社長としての一番の肝になる部分ですが、そのあたりについてお話しします。

先ほど、五十五万人日に及ぶ福島復興のためのお手伝い活動の話をいたしました。この活動は、原子力以外の、たとえば配電や火力の社員たちや事務系の社員たちに対して、草刈りや雪下ろしなど復興のためのボランティア作業に参加してほしいとお願いをしました。原子力以外の社員数は約二万五千人ほどですから、五十五万日を割れば、一人当たり二十数日となります。これは、**多くの社員たちが「あれは原子力発電所の事故だ、原子力に携わっている部署の人間がやるべきだ」とはとらえず、「東京電力が起こしてしまった事故なのだから、我々の全員が一致団結して当たらなければならない」と思ってくれた**ことの、ひとつの証しになる数字だと思います。全社員からの協力を得られるか、これは社長として一番の心配をしたところでもあります。

当時、社員たちは東京電力の制服を着るのを嫌がり、社宅には石を投げられましたし、検針員もメーターを読みにいくのを怖がる。どこかに「あれは原子力の担当者たちが起こしたことなのに」という意識がある中では、みんなで一致団結しようといっても難しい状況でした。

そこで私は、とにかく社員たちと直接、面と向かって話をする機会を極力増やそうとしました。当時の私はかなりの忙しさで、現場を訪問する時間などほとんどありませんでしたが、その中で**少しでも時間があれば、少しでも予定の空きがあれば、とにかく現場に顔を出しました。昼間に訪ねてもみんな現場に出払って誰もいません。しかし、訪ねても仕方ないとは思わず、残っている人がいるのなら、とにかく顔を出すようにしました。**行くと、休みをとっている社員もいますし、現場に出てしまっている社員もいる。それでもかまわず、**サプライズで現場の事業所に行き、いわゆるフェイス・トゥ・フェイスで話をすることを心がけました。**

話す内容で強く心がけていたことは、「バラ色の明るい東京電力の話」をしないことです。本当は「二年頑張ればよくなるよ」とみんなを励ましたかったのですが、「先週、社長はうまいこと言っていたけれど、新聞を見たら全然違うじゃないか」となってはいけませんから、バラ色の明るい東京電力の話はせずに、賠償額が大きく膨らみそうだ、柏崎は動きそうな気配すらないということを話す。但し、もちろん最後には「みんなで一致団結してこの難局に当たれば、必ず何とかなる」と言いました。とにかくまずは直接顔を合わせながら話す機会を増やしていくようにしました。

会社の現状説明から始まり、それが終われば社員たちからの質問がある。「社長は眠れていますか」みた

いなことも含めて、とにかくみんなからも話をしてもらうようにして、目を見ながら会話をする。そういうことをずうっと重ねてきました。

どれだけの効果があったのか、東京電力の一体感がどれだけ醸成されたのかといわれても、正直、わかりません。それを知りたいのなら、私ではなく社員に聞かなければなりません。ただ、社員たちが計五十五万人日も福島復興のボランティア活動に汗してくれた。みんなの気持ちがひとつとなり、そこに集まったのは事実です。参加しなかった社員は一人もいないと聞いていますし、東電を何とかしなければならないと、みんなが一生懸命に頑張ってくれたことは間違いない。これだけは私の口からも言えることだと思っています。

～さいごに～

今もまだ避難先で生活をしていらっしゃる方々がいます。廃炉はまだまだ序の口の段階であり、何をどこまでやって、何年かかるのかもわかりません。大事なことは、社員の今の気持ちを切らさないということです。彼らが東京電力に在籍しているあいだに解決できることではないかもしれませんが、気持ちを切らさないこと、気持ちをつないでいくことが今の東京電力にとって一番大事なことだと思っています。

（令和五年十一月十日
午さん会講演抄録文責在記者）

CLUB GRAF くらぶ・ぐらふ

◎午さん会（11月10日）
『福島原子力事故　～現状と学び～』

一般社団法人 日本動力協会 会長
世界エネルギー会議 副会長
前東京電力ホールディングス 社長
廣瀬　直己 氏

◎午さん会（11月17日）
『これまでの水力発電
～黒部ダム六十年のあゆみ～と
これからの水力発電について』

関西電力株式会社
再生可能エネルギー事業本部　水力部長
山根　雄一 氏

◎午さん会（11月24日）
『最近の金融経済情勢』

日本銀行　大阪支店
副支店長
高田　英樹 氏

倶楽部だより

館内見学会を行いました

二月十三日（火）、二十日（火）の両日、館内見学会を試行実施しました。

これは、食堂利用増に寄与するとともに、入会者増に繋がることを期待し、会員以外の方で当倶楽部の建物等に関心のある方を対象とした見学会です。

当倶楽部ホームページやチラシで募集し、電子メールにて応募いただいた所、二回で十名のご参加がありました。

見学会は有料制で、当倶楽部（本館）を説明後、館内を巡回して実物をご覧いただいた後、三階食堂でランチを楽しんでいただきました。

今回、試行実施でありましたが、当倶楽部に対する建設的なご意見もいただくこともでき、良い機会となりました。

お詫びと訂正

先月号の「令和六年度委員会・グループ懇話会幹事・同好会委員」ご紹介の中で、食堂委員会 委員において、お名前の誤りがございました。

お詫び申し上げますとともに訂正いたします。

（誤）山下寿美江
（正）山本寿美江

電壮会講演会実施

『GPSとは？～その測位原理と開発の歴史とその現状～』

電壮会（代表幹事 伊貝 武臣氏・当番幹事西牧 隆利氏）は、去る三月七日（木）十九名の参加のもと、立命館大学名誉教授・上席研究員の杉本 末雄氏を講師に招きご講演いただきました。

講師の杉本 末雄氏と当番幹事の西牧 隆利氏

能登半島地震　義援金を被災地へ寄付

～義援金の趣旨にご賛同賜り　誠にありがとうございました～

当倶楽部は、去る一月一日に発生した「令和六年能登半島地震」により被災された方々への復旧・復興支援の義援金を、一月下旬から二月末までの間に、一階受付、三階食堂受付等に置いて募りました。

その結果、総額拾万円のご厚志をいただきました。被災された方々への一日も早い復興を願って、三月十一日に日本赤十字社大阪府支部へ疋田常務理事が出向き、被災者の皆様へ寄付していただくよう手渡しいたしました。

会員（当倶楽部職員を含む）の皆様方の温かいお気持ちに心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

日本赤十字社大阪府支部
新井氏と疋田常務理事

NO. 2023-587

受　領　証

一般社団法人中央電気倶楽部 様

住所　大阪府大阪市北区堂島浜２丁目１－２５

￥１００，０００★

令和６年能登半島地震災害義援金として、被災県の義援金配分委員会を通じ、金額を被災された方々にお届けいたします。

（注）この義援金は税法上の寄附金控除の対象となります。
この領収証に貼付の金額は、所得税法施行規則第１号、法人税法施行令第３条第３項第１号に定める証明書類に該当します。

上記受領致しました

令和6年3月11日

大阪市中央区大手前二丁目１番７号
日本赤十字社大阪府支部長

（備考）所得税の確定申告又は法人税の申告で寄附金控除を受けるに際しては、このピンク色の専用の受領証が必要になりますので、大切に保管してください。

新入会員のご紹介
（三月理事会承認・四月入会）

【法人会員】
株式会社英進
東京都品川区西五反田二・二十三・五
ジニアスビル五階
電話　〇三・五四三六・六五五一
FAX　〇三・五四三六・六五五二
事業内容　建築及び店舗内装の企画、設計、施工
法人代表会員
代表取締役　竹中　誠氏
法人指定会員
監査役　岡本勝士氏
取締役　的場良太氏
取締役　大貫晃弘氏
（紹介者）岡本勝士君
野上勝也君

【個人会員】
竹鼻　徹君（昭和三十八年生まれ）
職歴　株式会社東芝
CS・サービス推進室　参事
（紹介者）南山文代君
疋田孝純君

池端　博君（昭和三十四年生まれ）
職歴　日本リーテック株式会社
副支店長
（紹介者）疋田孝純君

◎社名変更案内
新会社名
株式会社HTメタルテック
（旧　阪急鉄工株式会社）
変更日　令和六年四月一日（月）

北側月極駐車場の利用者を募集します

当倶楽部の収支改善の一環として継続的収入を得るため北側駐車場を月極により貸し出しすることとします。
つきましては次のとおりご利用される方を募集いたします。

※会員様限定　四台
月額利用料　三七、〇〇〇円（税込み）
初期費用　不要
契約期間　一年更新
サイズ　全長五、五〇〇㎜
全幅二、五〇〇㎜

お問い合わせは総務グループ藤川まで。

新聞取材を受けました

三月十四日（木）、当倶楽部は産経新聞社から取材いただきました。
今回は、「大大阪」時代からおよそ百年を迎えるのを前に、当時の様子を今に伝える倶楽部建築の魅力や建設の背景、逸話などの紹介を通して大阪の歩みを再考することを目的として大阪倶楽部、日本綿業倶楽部と共に取材いただいたものです。
取材は、当倶楽部の概要を説明させていただいた他、大ホール、大食堂、ロビーや撞球室などを撮影いただきました。記事は四月下旬頃に掲載される予定です。

当日の取材の様子

令和六年 合同安全祈願祭 実施のご報告

三月十九日（火）の十一時から屋上「宣光稲荷大明神」にて大阪城豊國神社の神職による祝詞が奏上され、当倶楽部職員・テナント関係者・工事関係者の代表者による玉串奉奠が行われました。
昨年の無事を感謝し、今年の無事故・無災害と心身健康、さらなる事業発展を祈願しました。

図書だより

◎寄贈図書
『GPSハンドブック』
ご寄贈者　杉本末雄・柴崎亮介編集
杉本末雄氏（個人会員）
『人生九十年』
ご寄贈者　古谷昭雄・古谷八重子著
古谷昭雄氏（個人会員）

メールマガジンの運用開始について

当倶楽部のイベント周知用メールマガジン（以下メルマガ）の運用を近日開始いたします。
配信をご希望の会員様は、次に記載のメールアドレスに氏名および「メルマガ配信希望」と記載し、お申込みをお願いいたします。
メルマガに関する問い合わせは総務グループまで。
配信申込先：event@chuodenki-club.or.jp

◎絵画部（水彩画）教室
三月度（六日・水曜日）の画材は、「静物：花（ツバキ）」でした。
次回は四月三日（水）「着衣人物」です。

［今月の喫茶コーナー掲示絵画］

（絵画部員　大塚　晴造君）
「張り子の卵入れと野菜」

◎囲碁部例会（三月九日）
成　績
三　勝　七　段　村上　幸夫　君
二　勝　八　段　山田　　進　君
〃　四　段　廣川　強士　君
〃　四　段　松原　鍵吉　君
（参加者　七名）
（次回例会は四月十三日（土））

◎将棋部例会（二月二十四日）
成　績
三　勝　六　段　井上　清志　君
二　勝　六　段　楠本　光秀　君
（参加者　五名）
（次回例会は四月二十七日（土）指導あり）

◎ゴルフ部 第五七〇回 例会

（二月二十一日 小雨 於 茨木国際GC）

成績

優勝 石田 大君
二位 石田 貴志君
三位 河内 正志君

・優勝コメント

天候に恵まれず、寒さもあり、過酷なラウンドとなりましたが、運よく優勝することが出来ました。同伴競技者の久保恭人様、中野米蔵様一日ありがとうございました。

（次回は、第五七二回例会 四月十八日(木)花吉野CC）

◎撞球部例会（三月一日）

成績

優勝 村上 幸夫君
二位 藤井 正規君
三位 大竹 一夫君
四位 古割紀久三君
五位 池端 博君

（参加者 十四名）

・優勝コメント

月例会に参加したのは昨年十一月以来の四か月ぶり、それ以前もずっと優勝には縁がなく、この間練習もサボり気味でしたが今回は「もらい球」（対戦相手が残した球の配置）に恵まれ、フロックなどもあって、運よく優勝が転がり込みました。

勝ちは意識せず無欲で臨め、「戒め」の常套句です。まして優勝とは何をかいわんや、今回は優勝など夢にも思わず臨んだ結果ですがやっぱり「戒め」の通りでした。

現金なもので途端に練習する気になりましたが一旦味を占めた今、「戒め」を実践出来るか自信がありませんが「戒め」の方の味を忘れずに精進したいと思います。

対戦して頂いた方、当日参加されたみなさん、事務局の松本さん、審判の渡辺さん、ありがとうございました。

（次回例会は四月十三日(土)）

◎麻雀部 第二六四回 大会（二月十七日）

成績

優勝 青木 博陽君
二位 森岡 勇夫君
三位 上村 好行君
四位 永坂 雅彦君
五位 景山 績君

（参加者 二十名）

（次回大会は五月十八日(土)）

◎俳句部

第八百五十九回 **いなづま句会**

俳誌「かつらぎ」主宰 森田純一郎先生 指導

令和六年二月十七日

兼 題 当季雑詠五句

選 者 吟

浅春に出会ふ生田の折れ鳥居
桜貝もがな稲毛の浜を行く
地震跡の中突堤の冴返る
余寒なほ梅田地下街出でたれば
冠雪の冨士見んと立つデッキかな

いなづま句抄

○なにもなき尿前の関初音聞く　冨山 勝幸
○版木藏ひとり寒九の経を刷る　難波 正行
○月山の麓の香り蕗の薹　留岡 寛
○赤き実に鳥来る庭や春隣　木下 貴友
○句読点すこしは欲しき懸想文　東代 舞
○街中の生田の森に初音聞く　広田 祝世
○蕪村句碑淀の流れのどこか春　出店智恵呼
○薄氷や水底息吹くものあらむ　奥村 恵子
○梅花祭だらりの帯のあでやかに　友岡 淑子
○古民家の静寂破る雪解かな　前野美枝子
○爆音を響かせ一機寒空へ　野尻 弘輔
○添削に指折らるるや初句会　渡邊 建彦
○受験生御守り強く握りしむ　前田 便利

（○印選者選）

（注）

尿前の関（しとまえのせき）：松尾芭蕉が奥の細道の途中、出羽へ入る山越えの手前、仙台藩の関所のことで、芭蕉はそこで「蚤虱馬の尿（ばり）する枕もと」の句を詠んでいる。

初音（はつね）：その年、初めて聞く鶯の鳴き声のこと。（季語）

版木藏（はんぎぐら）：宇治、黄檗山萬福寺の塔頭、宝蔵院の収蔵庫で、一六八一年に完成したお経の版木が保存されており、いまも収蔵庫の一角でこの版木の一部を使ってお経が刷られている。

寒九（かんく）：寒の入りから九日目のこと。この日は「一年でもっとも水が澄む日」といわれ、「寒九の水」として薬・酒造り料理に使われることがある。（季語）

春隣（はるとなり）：冬も終わりに近づき、春の気配がどことなく漂う様子のこと。（季語）

懸想文（けそうぶみ）：恋文に似せて縁起を祝う文が書いてある札のこと。縁結びの須賀神社では二月の節分会に懸想文が売られる。（季語）

梅花祭（ばいかさい）：菅原道真公の命日の二月二十五日に、各地の天満宮で催される祭のこと。（季語）

雪解（ゆきげ）：春になって雪が解けること。（季語）

他倶楽部案内

清交社の午さん講演会のご案内

会 場…ANAクラウンプラザホテル大阪 四階平安の間 他

時 間…十一時三十分～十三時三十分

四月二日(火)
講題『激動の時代と求められるリーダーシップ』
青山社中株式会社 筆頭代表 CEO 朝比奈 一郎 氏

四月九日(火)
講題『激動する国際情勢と日本の課題 二〇二四』
一般社団法人 日本学術機構 代表理事 岩田 温 氏

四月十六日(火)
講題『社員・お客さまとともに 企業価値を高めるSDGs活用 ～競争優位をどう実現し収益力を上げるか～』
千葉商科大学大学院客員教授／ESG／SDGsコンサルタント 笹谷 秀光 氏

四月二十三日(火)
講題『後継者の育成～伝統工芸と文化財』
京都伝統工芸大学校長・京都伝統工芸館館長 新谷 由貴代 氏

四月三十日(火)
講題『新時代を迎えた認知症の医療と介護』
大阪大学大学院医学系研究科 精神医学教室 教授・医学博士 池田 学 氏

◆出席ご希望の方は、当倶楽部事務局に二日前までにお申し込み下さい。

◆会費／三、三〇〇円（昼食代 消費税込後日精算）前日の午後五時以降は、キャンセル料が発生します。

☆ネクタイ着用

※状況により中止になる場合があります。